

はじめに

日本福祉施設士会は、全国社会福祉協議会の会長が付与する「福祉施設士」を有する施設長により構成される種別横断的な専門職団体として、時代の変化を先取りし、財務管理、経営管理、サービス管理、人事労務・職員養成などの専門研修や、業務改善・職員養成の手法としての福祉QC活動の普及・推進に取り組んできました。

社会福祉基礎構造改革により、福祉サービスの多くが措置制度から利用契約制度に移行したことにより、福祉サービスの質について広く国民の関心を集めるようになりました。

また、供給主体の多様化がすすむなど、社会福祉を取りまく環境は大きく変化しています。

現場の最高責任者として「サービスの質の向上とは何か」を日々考える立場にある施設長には、ますます施設経営管理の責任や能力が問われることはいうまでもありません。あわせて、広く地域社会に貢献する役割も一層重要になってきます。

福祉施設士は、施設長としての資格要件を充足したことに留まらず、常に研鑽を行う必要があることを今まで以上に自覚し、サービスの質の向上に努める必要があります。

今回の実態調査では、日本福祉施設士会会員の属性や実践を通じて、新たな福祉施設長像を描いていただくことができるかと思えます。

福祉サービス利用者の幸せを願う施設長で有りつづけるためにも、本調査結果を通じて一層の自己研鑽に努めていただければと願う次第です。

最後になりますが、本調査を行うにあたり、調査票の作成から取りまとめまで関わっていただいた、本会制度・政策研究委員会の皆様方に感謝申し上げます。

平成 15 年 1 月

社会福祉法人全国社会福祉協議会

日本福祉施設士会会長 広瀬清蔵